

那覇市天久で観察された鳥類（1）

嵩原 建二・久貝 勝盛・瀬名波 任

(沖縄県立博物館)

The Birds at Ameku area, Naha City, Okinawa (I)

Kenji TAKEHARA, Katsumori KUGAI and Tsutomu SENAHA

(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

那覇市天久の新都心開発地域（元米軍住宅地）は、総面積2,140,000m²で、那覇市の北西部安里、泊、古島、上之屋、天久、銘苅にまたがる広範な地域である（図1）。

大田（1975）によると、この地域の南東側にある小高に丘（標高約50m）には、第二次世界大戦中、旧日本軍の守備軍により「51高地」として堅固な陣地が構築され、上陸した米軍との間で激しく戦闘を繰り返した場所である。米軍はこの丘を「ショガーローフ（円錐形の丘の意）」と名付けたが、沖縄戦最大の犠牲者数である2600余人の死傷者をだしたとされる。

大戦後は旧銘苅集落の住民が戻り、農地を開いていたが、1953年4月から1954年8月にかけて旧銘苅、旧天久などの集落が米軍によって接収され、以来軍属及びその家族の住宅地として使用されていた（写真1）。しかし、1973年に返還が合意され、沖縄の本土復帰後の1987年5月に全面返還された。その後既設住宅の取り壊しが行われたが、そのまま放置され現在に至っている。このため河川沿いには潜在的な自然植生が回復し、また住宅地であった地域にはチガヤやヒメアブラスキ、ススキなどの草原が広がり、その中にモクマオウ、デイゴ、ガジマル、ホルトノキなどのかつての屋敷林の一部であったと思われる高木が散在する環境が残されていた（写真2）。また、解放地北側の一部は耕作地として利用され、サツマイモ、バナナ、ウコン、野菜等の農作物が栽培されていた。

本地域は現在新都心としての整備計画が実施に移され、地域振興整備公団による区画整理事業が進行中である。1993年冬に調査を実施した時点の現状は、総面積の約半分近く

が改変を受けており、造成工事の最中であった。したがって、回復してきつつあった自然環境が攪乱をうけている状況の中にあり、自然が保たれている地域は、まだ造成工事が行われていない北西部一帯の耕作地や丘陵地と河川沿いの古墓群発掘地域であった。

これまで那覇市における鳥類の記録は、近年与那城（1986）や慶田城（1988）によって報告がみられる。しかしながら、天久地域における鳥類の報告は、慶田城（1988）や沖縄野鳥研究会（1993）によって、断片的な報告が見られる以外は、まとまった報告はなされていない。

筆者らは、ビルが立ち並ぶ市街地のまっただ中にありながら、別世界のように自然植生が回復してきた本地域の自然環境を理解するため、そのひとつとして鳥類調査を実施し、若干の知見を得たので報告する。

この報告が将来の県立博物館の新館等の文化的施設が建設される際の屋外展示や緑地の植栽を検討する資料として、あるいは公園整備等を図る上で、那覇市街地の潜在的な自然環境を伺い知る基礎資料として、活用されることになれば幸いである。

本報告をまとめにあたり、調査に便宜を図って下さった地域振興整備公団、沖縄県企画開発部、那覇市都市計画課、那覇市教育委員会文化課の金武正紀氏、貴重な写真を提供していただいた那覇市広報課と那覇市教育委員会の古塚達朗氏に感謝申し上げる。また、貴重な野鳥の情報を提供していただいた沖縄野鳥研究会の比嘉邦昭氏、大城亀信氏と会員一同にも御礼申し上げる。

調査地環境及び調査方法

調査地地形は、調査地北西部および南東部に小高い石灰岩の丘^{*}（標高40～50m）が見られる他は大部分がなだらかな平地である。

調査地の地質は、島尻層群の第三紀泥灰岩が南半分を占めるが、北部の丘陵地帯や河川沿いに一部琉球石灰岩の露頭や風化土壌の島尻マージ帶が認められる。

河川は中央部に安里方面から安謝に向かうようにななめに流れる小規模な河川が見られ、銘苅原を流れる銘苅川と名護松尾原を流れる大湾川が合流して多和田川となり安謝川に注いでいる。河川水には生活排水が流れ込んでいて、濁りが目立ちドブ川化して水質は良好とは言えないように思える。

調査開始当初の本地域の植生は、概ねチガヤ、ススキ、ヒメアブラスキ、タチアワユキセンダングサなどの茂る草原で、その中にデイゴ、ガジマル、モクマオウ、ホルトノ

*1995年3月現在ではこの丘は土地造成により一部消失している。

キ、アカギ、シマグワなどの高木が散在し、一部はギンネムの灌木林になっている地域もみられた。

河川部の両岸には古い墓が残され、1990年から「銘苅古墓群」として那覇市教育委員会によって発掘作業が行われている。したがって、造成工事が入っていないため、河川部の両岸には一部地域にオオバギ、ホルトノキ、ヤブニッケイ、リュウキュウマツ、アカギ、リュウキュウハゼ、ガジマル、ハマイヌビワなどが密生する残存林があり、また河川部にはススキ、パラグラス、ネピアグラス、ギンネム、ノアサガオなどが密生する環境がみられた。

調査方法は、主に車上からのラインセンサス法で行い、特にルートを定めず地域内（図1）の作業用道路（未舗装）を縦横に時速10km程度のゆっくりとしたスピードで移動しながら、車の中から目撲される鳥類を記録した。車上からの調査は、特に開けた環境においては車をブラインド代わりにすることができ、野鳥が警戒して逃げないため、調査活動をすすめる上で大きな利点がある。鳥体の目撃には8倍の双眼鏡も併用し、目撃された鳥類は可能な限り写真撮影も行った。

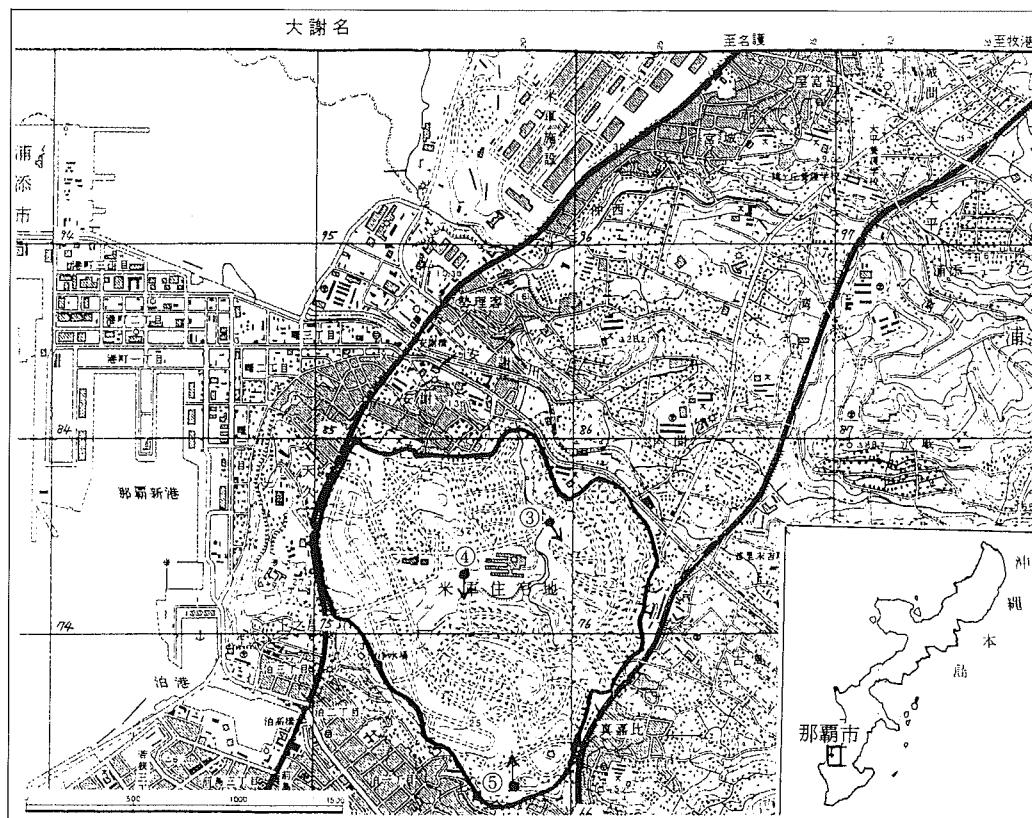


図1 調査地域——調査範囲(数字は写真番号と対応)
(メッシュ図は、天然記念物調査用メッシュ地図を改変)

主たる調査地域としては、まだ造成工事が進行していない北西部の農耕地地域や小さな河川部、沈砂地を目的に設置された調整池及びその周辺地域などで重点的に行った。

調査概要は表1にまとめて示したように、1989年の1月と1993年の1月から1995年3月までの間に不定期にのべ16回実施した。調査時期は冬場が主体で、夏場や夜間の調査は未実施である。

なお、調査は事前に地域整備公団に対し地域内への立ち入り許可を得て、鳥類調査は実施した。また、調査資料の一部には、筆者らが過去に調査した未発表の記録も活用した。

さらに、本報告をまとめた1995年3月の時点では、区画整理事業の進行とともに調査環境がかなり変容してきており、前述したような調査環境とはなっていないので注意を要する。

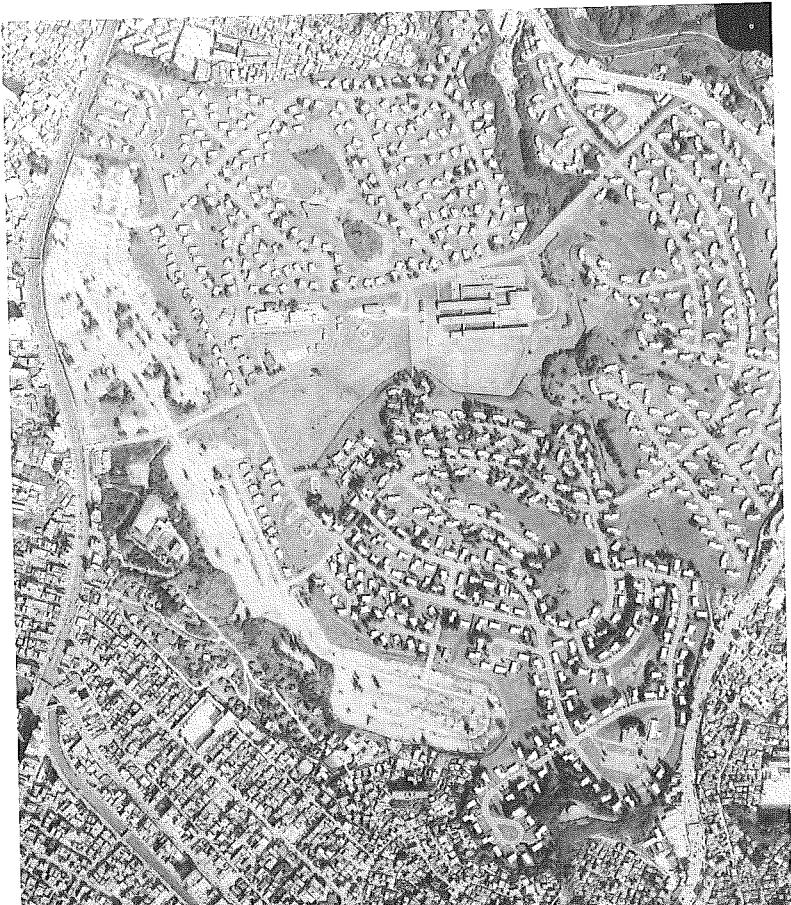


写真1 調査地返還前の航空写真（写真提供、那覇市教育委員会）



写真2 調査地遠望概観
(写真提供、那覇市広報課)

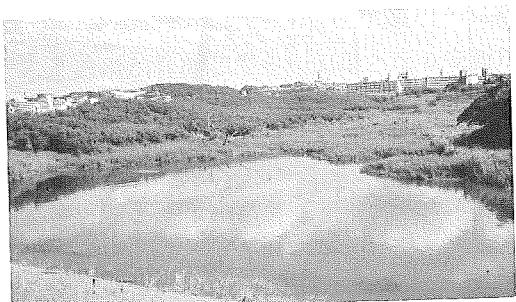


写真3 造成工事前(1)
(調整地周辺 1993. 10. 20撮影)



写真4 造成工事前(2)
(調査地南部 1993. 10. 20撮影)



写真5 造成工事後
(調査地南部 1995. 3. 22撮影)

表1 調査概要

調査日	天気	調査時間	調査距離	備考
1989年 1月23日	晴	---	--	住宅撤収後放置され、草原化。
1993年 1月31日	晴	13:00—15:08	4.0km	
1993年10月16日	晴	13:20—15:30	3.5km	造成工事中
1993年10月20日	晴	14:30—16:30	4.5km	"
1993年10月23日	晴	8:40—11:30	7.5km	"
1993年11月 6日	晴	11:00—12:15	5.5km	"
1993年11月 9日	晴	17:00—18:00	3.0km	"
1993年11月15日	晴	15:30—16:00	3.0km	"
1993年11月27日	雨	15:30—16:00	3.0km	調査池の水かさが増す。
1994年12月 5日	晴	13:25—14:15	3.3km	造成工事中
1994年12月20日	晴	12:40—13:12	5.2km	"
1994年 2月18日	晴	10:00—11:30	6.6km	"
1994年 3月 4日	晴	12:00—13:00	6.6km	"
1994年 3月 6日	晴	12:20—13:20	5.6km	"
1994年 3月18日	曇	13:30—15:15	4.6km	"
1995年 3月22日	晴	9:30—12:00	4.0km	"
延べ16日		延べ1,207分	延べ73.9km	

調査の結果と考察

1、鳥類の出現概要について

今回の調査で記録された鳥類は、表2に示したように1993年10月から1994年3月までに61種確認された。また、未発表の資料や1995年の調査記録を加えると63種であった。

その内訳は留鳥としてセッカ、メジロ、シロガシラなど17種、旅鳥や冬鳥としてコサギ、ダイサギ、コガモ、オナガガモ、カルガモ、アオアシシギ、タゲリ、アカハラ、マヒワなど45種、帰化鳥としてアミハラ1種が確認された。したがって、大部分が渡来して生息する鳥類であることがわかる。

与那城ら（1984）は、沖縄島の留鳥を34種としているので本地域からは、その半数が確認されたことになる。

これまで那覇市における鳥類の報告としては、慶田城（1988）による那覇市の市街地における「定点メッシュ法」によって、8目23科60種の鳥類が記録されている。その中で天久地域からの鳥類記録として、ムナグロ、ムネアカタヒバリなど23種を報告している。また沖縄野鳥研究会（1993）は、オオノスリ、ミヤマホオジロの2種を報告している。したがって、本地域でこれまで記録された鳥類を総合すると巻末の「天久の鳥類目録」に示したように、帰化鳥を含め9目25科65種（亜種を含む）になるものと考えられる。このことから本地域は、定点メッシュ調査で那覇市の全域から観察された鳥類数に匹敵する種数が確認できたことになり、留鳥の生息地或いは渡り鳥の渡来地として重要な地域であったことが示唆される。

その中では天久地域で新たに記録された種として、セイタカシギ、タゲリ、クロハラアジサシ、マガモ、カルガモ、カワセミ、アオアシシギ、ミサゴ、モズ、クサシギ、ゴイサギ、アカハラ、コミニズクなど41種あった。

本地域で確認個体が多かった種は、表2に示したように留鳥ではシロガシラ延べ368個体、アミハラ延べ203個体、バン延べ184個体、ヒヨドリ延べ107個体、キジバト延べ79個体などでこれらの種が優占的に生息している。冬鳥ではコガモ延べ194個体、ダイサギ延べ103個体、オナガガモ延べ74個体、コサギ延べ70個体などと個体数の確認が多かった。なお、夏場や夜間の調査を実施していないので、夏鳥として生息の可能性あるサンコウチョウや夜行性の鳥類であるヤマシギ類の確認はできなかった。しかし、ヤマシギについては採餌痕を調整池近くで確認した。また、本地域は森林地域はごくわずかであるので、森林地域に多くみられているカラス科、シジュウカラ科、サンショウクイ科、キツツキ科などに属する種を欠いていた。

2、出現種数について

本地域で一調査日（1回）当たりの調査で確認された種類数は、図2に示したように最も多い日が37種で平均27.1種であった（表2参照）。これは見落としもあるが時期的には冬季で冬鳥の確認が多いことによるものである。したがって、天久地域は市街地でありながら、冬鳥が集中して生息する場所であったことが示唆された。

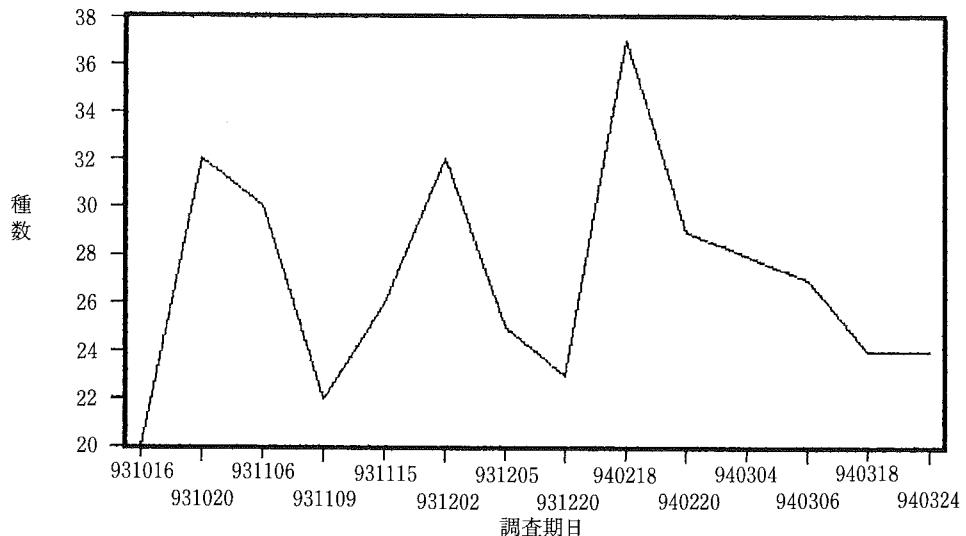


図2 天久地区における種数の変動 (1993. 10~1994. 3)

3、確認された保護を必要とされる貴重種

ここで扱う貴重種としては、(1)琉球列島の固有種、(2)天然記念物、(3)環境庁（1991）の日本版レッドデータブックでランクづけされた絶滅危惧種や危急種等をその範囲とした。

天久地域で確認された鳥類の中には、(1)及び(2)の該当種はなく、(3)のランクづけで「危急種」としてミサゴの1種、「希少種」としてセイタカシギ、チュウサギの2種が確認された。したがって、その生息地となっている調整池を中心とする水辺の環境や残存林などは、これらの貴重種の冬季の生息地として利用されていた。しかしながら、これらの種は渡来種であり、その利用は一時的なものである。

4、各種鳥類の出現状況について

出現した鳥類の中から主な鳥類をして選択し、以下にその出現状況について述べる。

1) カツツブリ類

カツツブリが93年11月6日に調整池で3羽確認され、その後最高6羽確認されている。本種は県内各地で留鳥としてふつうに生息するので、おそらく本地域でも留鳥として生息しているものと思われる。

2) サギ類

ダイサギ（写真6）、コサギ、アマサギ、チュウサギ（写真7）、アオサギ（写真6）、ササゴイ、ゴイサギ（写真8）の7種が目撃された。

これらのサギ類は県内各地に旅鳥や冬鳥として渡来し、河口干潟や河川、湿地などで生息する。本地域では大部分の種が調整池やその周辺地域の残存林などを中心に生息してい

たが、チュウサギとアマサギは隣接するチガヤ草原や農地などで単独及び小群で採餌する個体も見られた。

個体数ではダイサギが最高26羽、ゴイサギが最高24羽（1994年3月6日）、コサギが14羽（11月9日）と渡来数は多かった。したがって、サギ類にとっても冬季の生息環境として良好であったことが考えられる。

3) ガンカモ類

コガモ、マガモ、オナガガモ、ハシビロガモ（写真9）、カルガモ（写真10）、ヒドリガモ、ズズガモ、キンクロハジロ、シマアジ、ホシハジロ、オカヨシガモの11種が調整池で観察された。これらのカモ類は沖縄では冬鳥として渡来する種である。目撃された個体数はコガモが最高31羽（11月6日）、カルガモが最高14羽（11月6日）、オナガガモが6羽（11月9日）であった。これら以外のカモ類の個体数は1から3羽程度であった。これらのカモ類の中でマガモとコガモ、ハシビロガモ、オナガガモなどはダム湖内でしきりに採餌を行っていた。したがって、サギ類と同様ガンカモ類にとっても冬季の生息環境として良好であったことが考えられる。

4) アジサシ類

クロハラアジサシ（写真11）の渡来が、1993年10月16日に調整池で6羽確認された。本種は数少ない旅鳥として沖縄を通過するアジサシであり、ダム湖や沼地、水田などで見られる。しかしながら、一度に6羽の例は県内では他に記録がないものと思われる。

5) ワシタカ類

サシバ、チョウゲンボウ（写真12）、オオノスリ（写真13）、ツミ、ミサゴの5種が確認された。沖縄においてはツミだけが留鳥で、残りの4種は旅鳥や冬鳥として開けた農耕地や草原、森林部の林縁で生息するワシタカ類である。

この中で特筆すべきことは、オオノスリが確認されていることである。沖縄野鳥研究会（1993）によると、1989年2月9日に1羽観察され、写真撮影されている。筆者らは1989年1月23日に1羽確認した。

本種は主に中国北西部からインド北部地域に分布し、灌木林や草原など生息する。日本ではまれな迷鳥としてあつかわれており、沖縄でも記録は少なく、沖縄本島や宮古などで記録のあるだけのわめてまれな鳥類とされる。しかも市街地の近くでみることはまれで、その意味で草原が回復してきたこの地域は、本種の餌場として最適な環境を提供していたであろうと考えられた。

6) クイナ類

バン、シロハラクイナ、ヒクイナ、オオバン（1995.3/22、2羽）の4種が調整池や河川沿いで目撃された。バンは最高20羽以上も目撃され、ヒナも目撃されたのでここで繁

殖活動を行い、ほぼ良好な生息地として周年定着しているものと思われる。

7) チドリ類

調整池でタゲリ（写真14）、草原地域でムナグロの2種が確認された。タゲリは主に冬鳥として渡来するが、数は少ない。本地域では過去にムナグロ（慶田城、1988）の記録があるので、ムナグロは再確認である。今後このような環境が維持されれば他にコチドリ、シロチドリなどが渡来する可能性があろう。

8) シギ類

アオアシシギ、コアオアシシギ、イソシギ、タカブシギ、クサシギ、タシギ、タシギの一種、セイタカシギ（写真15）、ヤマシギの合計9種が調整池及びその周辺で観察された。これらのシギ類は県内ではふつうに旅鳥や冬鳥として渡来するシギ類である。しかし、これだけの種類が一ヵ所に集まって見られることは少ない。したがって、本地域はこれらの種が旅の途中に立ち寄る中継地や越冬地として絶好な場所であったことが考えられる。

9) フクロウ類

コミミズクのみが草原地域で確認された（写真16）。本種は冬鳥として県内に渡来し、草原に生息する。また、曇りの天気には昼間でもよく活動する。

本地域はしばらく住宅地として使用されていたが、返還されて住宅地が取り壊され放置されたままになっていたため、草原の回復が見られた。また造成工事のために一部草刈されていたため、草原が広がっている環境も見られた。本種はそうした場所をこのんで採餌場所として利用し、本地域では3羽の生息を確認した。

10) カワセミ類

カワセミ（写真18）が1993年10月16日に調整池で1羽目撃され、その後11月9日には2羽、12月7日、12月20日にはそれぞれ1羽確認された（表2）。この鳥は通常水のきれいな川にすみ、主として川魚を餌にしている。しかし、都市化が進行していくにつれ川の汚れが目立ち、川から餌となる川魚が姿を消すことと時を同じくしてこの鳥も市街地からいなくなってしまった。こうした意味で自然環境の良否を判断する指標生物として見ることもできる鳥類である。したがって、この鳥が確認できたことは自然が回復してきたひとつの証拠として考えることもできるであろう。

本種が生息する調整池には無数のグッピーが繁殖しており、おそらくこれをエサに定着して生息しているものと思われ、♂♀2羽確認された日もあったので、この地域で繁殖している可能性がある。

11) モズ類

モズが北側農耕地で1羽目撃された。本種は冬鳥として県内各地に渡来するが、数は少ない。観察も1回だけのだったので、おそらく渡り中途の個体が目撃されたと思われる。

12) ヒタキ類

セッカ、ノゴマ、ウグイスなど3種が目撃された。セッカは農耕地や牧草地に普通に生息する留鳥で、地域内の草原的な環境のいたる所で目撃された。また、ノゴマは県内では冬鳥として渡来し、林縁や農耕地などでまれに見られる種である。本種はおそらくここで越冬中の個体が目撃されたものと思われる。

13) ツグミ類

シロハラ、ツグミ、アカハラの3種が草原や残存林などで目撃された。これらの鳥は県内各地に旅鳥か冬鳥として渡来する。この中でアカハラは1994年2月18日に6羽の群れが観察された。本種は通常小群で渡りを行うことが知られているので、渡り中途の群れが立ち寄ったものと思われる。

14) ホオジロ類

アオジのみが河川沿いの林縁で確認された。本地域では過去にミヤマホオジロ（比嘉私信）、ホオアカ（大城亀信私信）の記録があるので、この地域では3種のホオジロ類が記録されたことになる。これらの種は主に冬鳥として県内各地に普通に渡来する冬鳥であり、林縁や灌木林のしげみの中で生息する。おそらく、本地域でも越冬している個体が目撃されたものであろう。

15) セキレイ類

キセキレイ、ハクセキレイの2種を造成地内草原や調整池近くで目撃した。天久地域では慶田城（1989）によってムネアカタヒバリが確認されているので、本地域からは3種のセキレイ類が確認されたことになる。これらはいずれも県内では旅鳥か冬鳥で渡来し、草原や水辺、河川近くなどでみられる。

16) アトリ類

マヒワのみが確認された。本種は散在する高木であるモクマオウの実をついぱんでいる小さな群れを目撃した。本種は冬鳥として普通に渡来し、県内各地で見られる。本地域では渡り中途の小群が目撃されたものと思われる。

17) ハタオリドリ類やカエデチョウ類

スズメとアミハラの2種が確認された。スズメは広域分布種で、アミハラは飼い鳥が野生化（帰化）した種類である。アミハラは地域内の草原に出現するヒメアブラススキの種を採餌している10羽内外の小群がしばしば目撃された。また、1993年11月9日の夕刻近くの4時ころ、道路にたまつたわずかな水たまりに、シロガシラの群れとともに80羽以上の群れで集まり、水浴びすることが目撃された。さらに、調査期間内でのべ203個体も目撃された。このことから本地域に優占的に生息する種のひとつであることが考えられた。

調査の課題

調査結果で示したように、市街地に隣接した場所でありながら意外と鳥類の確認が多かった。今後調査を継続していくば環境の変化にともないさらに確認種数は増えることが予想される。したがって、造成工事が完了する時期や工事後まで可能なかぎり調査を継続する必要があるものと考えられる。このことは本地域の工事前や工事中及び工事後における鳥類の出現がどのように変動していくかを明らかにする絶好の機会であり、自然環境の変化にともなう鳥類の生息への影響を知るうえで貴重な資料になりえると思われる。

また、夏場の記録がないので夏場の調査を実施することも必要であり、さらに今後鳥類の出現種数の季節的な変動も把握する必要性があるものと思われる。

要約

- 1、1993年10月から1995年3月まで、那覇市の新都心開発地域である天久地区で鳥類調査を実施し、これまでの記録と合わせて9目25科65種（亜種を含む）の鳥類目録を作成した。
- 2、出現した鳥類の内訳は、留鳥が17種、旅鳥及び冬鳥が47種、帰化鳥が1種となり、渡来種が主体であった。
- 3、天久地区は市街地に囲まれているにもかかわらず、集中的に野鳥が生息する地域となっており、冬期の平均の出現種数は27.1であった。また天久地区で新たに記録された種は41種にのぼった。

参考文献

- 沖縄野鳥研究会編. 1986. 沖縄県の野鳥. 265pp. 沖縄野鳥研究会.
- 沖縄野鳥研究会編. 1993. 改訂沖縄県の野鳥. 299pp. 沖縄出版.
- 大田昌秀. 1979. これが沖縄戦だ. 琉球新報社.
- 環境庁編. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—脊椎動物編. 330PP. 野生生物研究センター.
- 慶田城健仁. 1988. 那覇市の鳥類（予報）, R, BIRD(1) 1-10. 沖縄野鳥研究会.
- 那覇市教育委員会編. 1992. 銘苅古墓群（南地区）. 那覇市教育委員会.
- 与那城義春. 1986. 沖縄の野鳥観察. 168pp. 沖縄出版.
- 与那城義春・久貝勝盛・玉城常雄. 1984. 沖縄の鳥類, 沖縄の生物. p267-280. 沖縄生物教育研究会.

図版1 天久地域で確認された鳥類(1)



写真6 ダイサギ(左)・アオサギ(右)



写真7 チュウサギ



写真8 ゴイサギ



写真9 ハシビロガモ



写真10 カルガモ



写真11 クロハラアジサシ

図版2 天久地域で確認された鳥類(2)

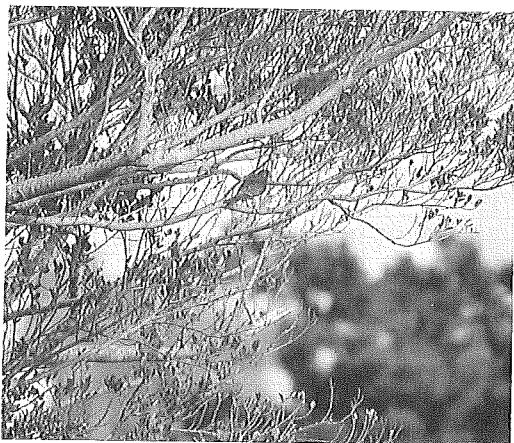


写真12 ショウゲンボウ

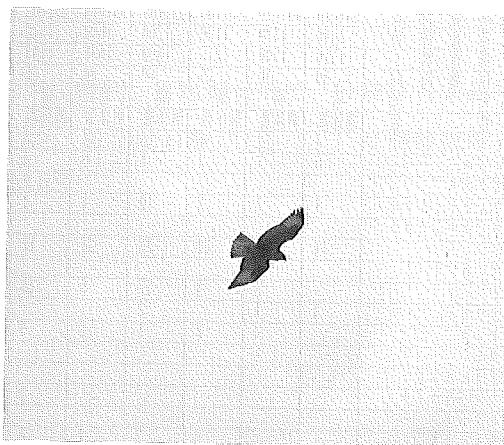


写真13 オオノスリ



写真14 タゲリ



写真15 セイタカシギ



写真16 コミミズク



写真17 カワセミ

表2 天久地区の鳥類調査記録

調査期日	931016	931020	931106	931109	931115	931202	931205	931220	940218	940220	940304	940306	940318	940324	合計
調査開始	1440	1430	1100	1700	1600	1510	1325	1240	1000	1420	1200	1220	1330	1030	
調査終了	1510	1500	1215	1800	1630	1645	1415	1312	1133	1520	1300	1320	1515	1200	
所要時間	30	30	75	60	30	55	50	32	93	60	60	60	105	90	830
大気種名	晴	晴	晴	晴	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	曇	快晴	晴	
個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数計
1 ヒヨドリ	4	12	8	6	14	8	7	4	4	6	11	4	10	9	107
2 メジロ	6	7	3	1	6	4	3	1	7		5	3	16	4	66
3 ウグイス						3	3	2	4	1	2	1	4	2	22
4 リュウキュウツバメ	1	7	2	19	4	4	2	10	14	11	16	10	2	6	108
5 リュウキュウヨシゴ										1					1
6 バン	14	12	24	32	27	12	6	9	8	6	9	9	12	4	184
7 ズアカアオバト		1							14	2	1	1	2	6	79
8 キジバト		8	3	15	9	16	2								5
9 カワセミ	1	1		2			3	2	3	1	6	4	8	9	49
10 セッカ		4	3	1	2	3		1	1						4
11 ツミ		1									1				1
12 イソヒヨドリ									1	1	1		2	2	8
13 シロハラクイナ													1		1
14 ヒクイナ													3	2	23
15 カツツブリ			3	2	1	6	2	1	1	1	1				73
16 スズメ		10	10		6	10			7	30	0				
17 シロガシラ	27	11	4	30	20	31	10	7	7	140	23	4	43	11	368
18 コサギ	6	14	3	11	11	5	2	5	2		2	9			70
19 タイサギ	2	1	1	5	4	23	2	15	6	1	2	26	8	7	103
20 チョウサギ	1	12	4	9	3	3		2	7		1	1			44
21 アマサギ		3	2												5
22 ジロハラ							1		5		1		2	3	13
23 ササゴイ		1	1					2			1	1	1	1	10
24 サシバ	1	2	1	1		1	1	1	1	2	2	1	2		16
25 ミサゴ					1							1		3	17
26 イソシギ	2	1	2	1	1	1	1	1	2				1	2	18
27 クサシギ	2	4	1		3	2			1	1	1	1	1	1	17
28 タシギ		1	1			4									3
29 タシギの一種						3			4						4
30 ムナグロ									3	3			1		21
31 アオアシシギ	3	3	2	3	2		1		1	1		3	15		25
32 ハクセキレイ		2	1			2			1	1	1	1			12
33 キセキレイ	1	3	1	1			2			1	1	1			194
34 コガモ	4	8	31	29	13	46	28	8	13		4	7	3		1
35 ジマアジ					1										6
36 タロハラアシサシ	6														1
37 セイタカシギ					1									3	3
38 タカブシギ	1	1													23
39 マガモ		2		2	2	3	6		2	6					14
40 チョウウゲンボウ		1	2	2	1	1									1
41 モズ		1													1
42 オナガガモ			4		8	16	15	1	13	6	4	5		2	74
43 コアオアシシギ	2	2				1	1								1
44 ホシハジロ															49
45 カルガモ			14	13	4	3		3	6	5	1				1
46 タゲリ					1									20	6
47 ツバメ	2	1					3	1							4
48 スズガモ							2	13	8	16	6	1	24	4	94
49 ゴイサギ		12	4		2	13						2	2		2
50 ヒドリガモ				1		1									20
51 アオサギ			2			4	4	1	3	3		1	1		3
52 アオジ								1					2		9
53 キンクロハジロ						3	1		3						2
54 オカヨシガモ										2					11
55 アカハラ										6	5				11
56 ハシビロガモ			2				4		2	3			1		3
57 ツグミ			3						2						3
58 ムクドリ															1
59 ノゴマ									1						3
60 コミミズク									3						3
61 アミハラ	7	13	36	80	20	6		10	12		1	1	7	10	203
種数合計	20	32	30	22	26	32	25	23	37	29	28	27	24	24	27.0714※
個体数合計	93	162	178	266	170	240	116	104	177	250	126	105	168	99	2254

※は平均値。

那覇市天久の鳥類目録

Check-list of Birds in Ameke area, Naha-City.

(凡例) 調査: 1989年1月から1995年3月

記録の順序: 記録の順序は和名、学名、種別、目撃期日等で、分類は日本鳥学会(1974)を基本にした。数字は目撃期日、()は個体数等

カツツブリ目 PODICIPEDIFORMES

カツツブリ科 PODICIPIITIDAE

1. カツツブリ *Podiceps ruficollis*

留鳥: 調整池で観察。数は少ない。

コウノトリ目 CICONIIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

2. アマサギ *Bubulcus ibis*

旅鳥: チガヤ草原で観察。数は多い。調整池でも休息する個体を目撃した。

3. チュウサギ *Egretta intermedia*

旅鳥: 調整池及び草原、農地等で観察。

4. コサギ *Egretta garzetta*

旅鳥: 調整池で観察。

5. アオサギ *Adrea cinerea*

冬鳥: 調整池で観察。

6. ササゴイ *Ardeola striatus*

冬鳥: 調整池で観察。

7. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

冬鳥: 調整池で観察。

8. リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus*

留鳥: 調整池で観察。

ガンカモ目 ANSERIFORMES

ガンカモ科 ANATIDAE

9. コガモ *Anas crecca*

冬鳥: 調整池で採餌する行動を観察。

10. シマアジ *Anas querquedula*

冬鳥: 調整池で観察。

93/11/15(1)

11. マガモ *Anas platyrhynchos*

冬鳥：調整池で観察。

12. ヒドリガモ *Anas penelope*

冬鳥：調整池で観察。

13. オナガガモ *Anas acuta*

冬鳥：調整池で採餌する行動を観察。

14. ハシビロガモ *Anas clypeata*

冬鳥：調整池で採餌する行動を観察。

93/11/6(2)

15. オカヨシガモ *Anas strepera*

冬鳥：調整池で雄雌つがいで採餌する行動を観察。

16. カルガモ *Anas poecilorhyncha*

冬鳥：調整池で採餌する行動を観察。

17. キンクロハジロ *Aythya fuligula*

冬鳥：慶田城（1988）

93/11/27(2)

18. スズガモ *Aythya marila*

冬鳥：調整池で観察。

19. ホシハジロ *Aythya ferina*

93/12/2(1)

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

20. ミサゴ *Pandion haliaetus*

冬鳥：調整池上空でソアリング行動を観察。通過。

93/11/15(1)

21. オオノスリ *Buteo hemilasis*

迷鳥：草地の上空を飛び回り、ホバリングすることもしばしば観察された。

また、北西部の丘陵地にある岩にとまったり、散在するモクマオウ、デイゴ等の高木にとまり、休息することもあった。非常にまれ。

89/1/23(1),

89/2/9(1)（沖縄野鳥研究会, 1993）

22. ツミ *Accipiter gularis*

留鳥：調整池周辺の林の上空で観察。

23. サシバ *Buteastur indicus*

旅鳥及び冬鳥：調整池周辺の林や草地の上空で観察。

ハヤブ科 FALCONIDAE

24. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

冬鳥：調整池周辺の林や草地の上空で観察。

ツル目 GRUIFORMES

クイナ科 RALLIDAE

25. バン *Gallinula chloropus*

留鳥：調整池で観察。ヒナも見られたので繁殖している。

26. オオバン *Fulica atra*

冬鳥：調整池でみられた。

27. シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus*

留鳥：調整池や河川沿いで観察。

93/12/2(1), 94/2/18(1)

28. ヒクイナ *Porzana fusca*

留鳥：調整池近くの草地でみられた。

チドリ目 CHARADRIIFORMES

チドリ科 CHARADRIIDAE

29. ムナグロ *Pluvialis dominica*

旅鳥及び冬鳥：草原で目撃。

慶田城 (1988)

94/2/18(4)

30. タゲリ *Vanellus vanellus*

冬鳥：調整池で観察。

93/11/15(1)

シギ科 SCOLOPACIDAE

31. タカブシギ *Tringa glareola*

旅鳥及び冬鳥：調整池で観察。

32. クサシギ *Tringa ochropus*

旅鳥及び冬鳥：調整池で観察。

33. アオアシシギ *Tringa nebularia*

旅鳥及び冬鳥：調整池で観察。

34. コアオアシシギ *Tringa stagnatilis*

旅鳥及び冬鳥：調整池で観察。

35. イソシギ *Tringa hypoleucos*

旅鳥及び冬鳥：調整池で観察。

36. タンギ *Gallinago gallinago*

旅鳥及び冬鳥：調整池で観察。

37. タンギの一種 *Gallinago sp.*

旅鳥及び冬鳥：調整池で観察。チュウジシギ *Gallinago megala* と思われる。

セイタカシギ科 RECURVIROSTIDAE

38. セイタカシギ *Himantopus himantopus*

旅鳥及び冬鳥：調整池で観察。

93/11/14(1), 11/15(1)

カモメ科 LARIDAE

39. クロハラアジサシ *Sterna hybrida*

旅鳥：調整池で観察。

93/10/16(6)

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

40. キジバト *Streptopelia orientalis*

留鳥：農地やガジマル、モクマオウなどの高木などで観察。

41. ズアカアオバト *Sphenurus formosae permagnus*

留鳥：草地が造成された平地で休息する個体を観察。

93/10/20(1)

フクロウ目 STRIGIFORMES

フクロウ科 STRIGIDAE

42. コミミズク *Asio flammeus*

冬鳥：草原で観察。

94/2/18(3)

ブッポウソウ目 CORACIIFORMES

カワセミ科 ALCEDINIDAE

43. カワセミ *Alcedo atthis*

留鳥：調整池で観察。

93/10/16(1), 10/20(1), 11/9(2), 11/27(1)

スズメ目 PASSERIFORMES

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

44. ツバメ *Hirundo rustica gutturalis*

旅鳥：調整池や草地などの上空で観察。

45. リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica namiyei*

留鳥：調整池や草地などの上空で見られた。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

46. キセキレイ *Motacilla cinerea robusta*

旅鳥及び冬鳥：調整池で見られた。

47. ハクセキレイ *Motacilla alba lugens*

旅鳥及び冬鳥：調整池で見られた。

48. ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus*

旅鳥及び冬鳥：まれ

慶田城（1988）

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

49. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

留鳥：ガジマル、モクマオウなどの高木などで見られた。

50. シロガシラ *Pycnonotus sinensis*

留鳥：草地やガジマル、モクマオウなどの高木などで見られた。

モズ科 LANIIDAE

51. モズ *Lanius bucephalus*

冬鳥：農耕地や草地で見られた。

93/10/20(1)

ヒタキ科 MUSCICA PIDAE

ツグミ亜科 TURDINAE

52. ノゴマ *Erithacus calliope*

冬鳥：農耕地や草地で見られた。

94/2/18(1)

53. シロハラ *Turdus pallidus*

冬鳥：アコウやモクマオウの高木。

54. アカハラ

冬鳥：アコウやデイゴの高木で群れる。

94/2/18(15)

55. ツグミ *Turdus naumanni*

冬鳥：道路の水たまりや草地で集まっている群れの観察。

89/1/23(30), 94/2/18(2)

ウグイス亜科 SYLVIINAE

56. リュウキュウウグイス *Cettia diphone riukiuensis*

留鳥：草地で見られた。

57. セッカ *Cisticola juncidis*

留鳥：草地で見られた。

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

58. リュキュウメジロ *Zosterops japonica loochooensis*

留鳥：小さな群れがホルトノキやモクマオウ、ガジマルなどの高木やギンネム林で見られた。

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

59. スズメ *Passer montanus*

留鳥：農地近くのモクマオウ、ガジマルなどの高木で見られた。

アトリ科 FRINGILLIDAE

60. マヒワ *Carduelis spinus*

冬鳥：モクマオウの高木で採餌。

93/1/31(8)

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

61. ミヤマホオジロ *Emberiza elegans*

冬鳥：草地

88/2/12：沖縄野鳥研究会（1993）

62. アオジ *Emberiza spodocaephala personata*

冬鳥：草地で見られた。

93/1/31(1)

63. ホウアカ *Emberiza fucata*

冬鳥：草地で見られた。（大城亀信私信）

ムクドリ科 STURNIDAE

64. ムクドリ *Sturnus cineraceus*

冬鳥：モクマオウやガジマルなどの高木で見られた。

93/11/6(3)

カエデチヨウ科 ESTRILDIDAE

65. アミハラ *Lonchura punctulata*

留鳥：草地で見られた。飼い鳥の野生化。

備考：留鳥や冬鳥などの種別は、琉球新報社（1983）と沖縄野鳥研究会（1986, 1993）
にしたがった。